

横浜市侍従川におけるオオクチュゴイの出現

工藤 孝浩・瀬能 宏

Takahiro Kudo and Hiroshi Senou: Occurrence of jungle perch or rock flagtail, *Kuhlia rupestris* (Perciformes: Kuhliidae) at Jiju River, the south part of Yokohama City

はじめに

オオクチュゴイ *Kuhlia rupestris* (Lacepède, 1802) は、東アフリカからサモア、カロリン諸島までのインド-太平洋域の熱帯域に広く分布するスズキ目ユゴイ科の淡水魚で (Myers, 1999), 国内では高知県以南から記録されているが (高橋・瀬能, 1995), 沖縄島以北では比較的少ないとされている (瀬能, 1989)。

近年まで神奈川県における本種の出現記録はなかったが、1998~2000年にかけて筆者らが行った横浜市平潟湾流域の魚類相調査において (工藤ほか, 2002), 平潟湾への流入河川である侍従川から1標本が採集された。本種は1999年に相模川と酒匂川でも採集されているが (蓑宮ほか, 2002), 侍従川における出現は東京湾流入河川からの本属魚類の初記録となるのでここに報告する。

稿を進めるにあたり、有益な情報を提供いただいた西日本科学研究所の岡 慎一郎氏に対して謹んで感謝の意を表する。

採集の状況

採集地点

本種が採集された侍従川は、横浜市南部の金沢区内に水源を発し同区内の平潟湾に注ぐ流程約3kmの2級河川である。両岸は全てコンクリート護岸が施され、一部3面張りの区間もあり、生活排水の流入もみられる典型的な都市小河川である。

採集地点は、河口から1.4 km 遡った感潮域の上部で (図1), 河川形態はBc型 (宮地ほか, 1981)。河床は泥分を含む砂で、水深は干満によって変動し、干潮時の流心で20~80 cm。河道幅は約12 mで、干潮時には両岸に小規模な干潟が出現し、満潮時には両岸の護岸に水面が接する (図2)。1998年6月から2000年11月まで延

べ30回の調査で観測された表層水温と塩分は、それぞれ9.1-31.4℃, 3.4-22.0 psuの間で変動した。

採集状況

2000年10月25日、干潮2時間前の午前8時に、ひき網 (図2: 袋網: 開口部の幅と高さ2×1 m, 深さ1.5 m, 目合1 mm; 袖網: 片側4.5 mづつ, 目合約2 mm) を2人1組で徒歩で上流へ約50 m 曳網した。採集時の水深は40 cmで、水温は表層18.7℃, 底層19.4℃, 塩分は表層10.4 psu, 底層19.5 psuであった。採集された魚類は現場で10%ホルマリンにより固定され、後日実験室内で種の同定と個体数の計数・測定等が行われた。

当日は2曳網で、本種1個体のほか、チチブ *Tridentiger obscurus* 59個体, アシシロハゼ *Acanthogobius lactipes* 37個体, スジハゼ *Acentrogobius pflaumi* 4個体, トウゴロウイワシ *Hypoatherina valenciennei* 2個体, コトヒキ *Terapon jarbua* 1個体が採集された。本種の標本は神奈川県立生命の星・地球博物館魚類資料 (KPM-NI) として登録・保管された。

標本について

KPM-NI 8276, 標準体長23.7 mm (図3)。背鰭10棘-11軟条, 臀鰭3棘-11軟条, 胸鰭14軟条, 腹鰭1棘5軟条, 側線有孔鱗数42。

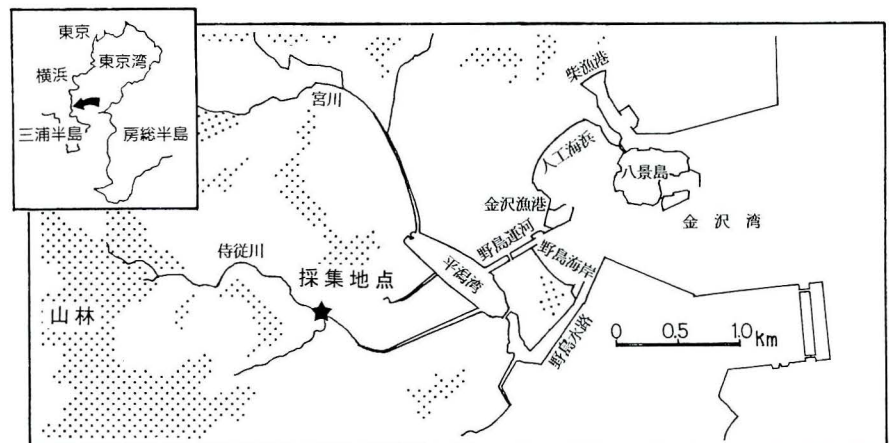


図1. 採集地点と平潟湾流域の概要.



図2. 採集地点におけるひき網採集。

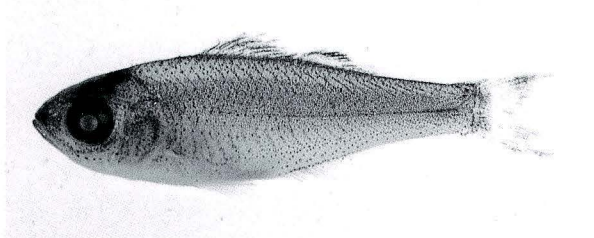


図3. オオクチユゴイ *Kuhlia rupestris*, (KPM-NI 8276, 23.7mm SL, Jiju River, Yokohama City, Oct. 25, 2000, Photo by T. Kudo).

10%ホルマリン固定後の体色は淡褐色を帯びた乳白色で、吻から頭部は暗褐色。体側にはほぼ一様に黒色素胞が分布するが、斑紋は未形成。各鱗は透明で、尾鰭両葉中央部と基底、背鰭の棘部鱗膜と軟条部中央に黒斑がみられる。これら黒斑のうち、尾鰭上葉と背鰭軟条部のものが最も濃い。

論議

本標本の体長では、同属のユゴイ *K. marginata* (Cuvier, 1829) と形態的に類似するが、林 (2000) に基づき、尾鰭黒斑の出現状況と側線有孔鱗数が42であること(オオクチユゴイ:41-44;ユゴイ:48-53)からオオクチユゴイに同定された。臀鰭軟条数は11で、11-12とされるユゴイのレンジに入るが(オオクチユゴイは9-10)、個体変異とみなした。

ただし、林(2000)が検索のキーとした側線有孔鱗数の範囲は両種で重複し、臀鰭軟条数が最も安定した標徴である可能性が高いとの指摘がある(岡氏私信)。側線有孔鱗数と臀鰭軟条数の問題は、ユゴイを含め多地域からの多くの標本に基づき検討する必要がある。

オオクチユゴイの標本に基づく北限記録は、近年まで高知県須崎市の灰方川であった(高橋・瀬能, 1995)。一方ユゴイは、三浦半島南西部の小網代湾に注ぐ小河川や(林・長峯, 1981)、房総半島南端の小河川(長峯, 1985)から記録があり、オオクチユゴイはユゴイに比較して分布が南偏する傾向がある。ところが、1999年に相模川と酒匂川(藁宮ほか, 2002)、2000年に侍従川(本報告)と、近年になっ

てオオクチユゴイの県内からの発見が相次いだ。

オオクチユゴイの産卵は、様々な塩分下における精子活性の検討から河川を下った海域で行われると推定されている(Hogan & Nicholson, 1987)。ユゴイについても証拠の明示を欠いたまま降河回遊魚であると述べられる場合が多かったが(例えば McDowall, 1988)、オオクチユゴイと同様な手法から産卵場が海域であると推定された(Oka & Tachihara, 2001)。従って、本県で採集された両種は海中生活期に黒潮によって南方から移送された後、河川に遡上したものと考えられる。

1999, 2000年はともに黒潮系の暖水が本県沿岸に波及する頻度が高く、相模湾の水温は平年より高めで推移し(山田・工藤, 2000, 2001)、黒潮によって移送されてきた仔稚魚が接岸しやすい海況であった。こうした条件下でオオクチユゴイのみが出現したことは興味深く、今後の情報蓄積が待たれる。なお、両種は温帯域で再生産するとは考えられず、いわゆる死滅回遊であると解釈するのが妥当であろう。

文献

- 林 公義・長峯嘉之, 1981. 三浦半島淡水魚類調査追加記録と一考察. 神奈川自然誌資料, (2): 23-28.
- 林 公義, 2000. ユゴイ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索: 全種の同定 第二版, p. 955. 東海大学出版会, 東京.
- Hogan, A. E. and J. C. Nicholson, 1987. Sperm motility of sooty grunter, *Hephaestus fuliginosus* (Macleay), and jungle perch, *Kuhlia rupestris* (Lacepède), in different salinities. Aust. J. Mar. Freshw. Res. (38): 523-528.
- 工藤孝浩・滝口直之・柵瀬信夫, 2002. 横浜市平潟湾流域の魚類相と人為的環境変化. 神奈川県水産総合研究所研究報告, (7) (印刷中).
- McDowall, R. M., 1988. Diadromy in fishes, migration between freshwater and marine environments, p. 89. Coom Helm, London
- Myers, R. F., 1999. Micronesian reef fishes. vi + 330 pp., 192 pls. Coral Graphics, Guam.
- 藁宮 敦・勝呂尚之・瀬能 宏, 2002. 相模川および酒匂川で確認された魚類-I. 神奈川自然誌資料, (23): 5-7.
- 宮地傳三郎・川那部浩哉・水野信彦, 1976. 原色日本淡水魚類図鑑 (全改訂新版). 462 pp. 保育社, 大阪.
- 長峯嘉之, 1985. 房総半島南部の魚類相—三浦半島との比較—. 横須賀市博物館報告, (32): 4-9.
- Oka, S. and K. Tachihara, 2001. Estimation of spawning sites in the spotted flagtail, *Kuhlia marginata*, based on sperm motility. Ich. Res. 48 (4): 425-427.
- 瀬能 宏, 1989. オオクチユゴイ. 川那部浩哉・水野信彦編・監修. 山溪カラー名鑑: 日本の淡水魚. pp. 479, 492-493. 山と溪谷社, 東京.
- 高橋弘明・瀬能 宏, 1995. 高知県で採集されたオオクチユゴイ. I.O.P. DIV. NEWS, 6 (6): 2.
- 山田和彦・工藤孝浩, 2000. 神奈川県三崎魚市場に水揚げされた魚類・IX. 神奈川自然誌資料, (21): 25-31.
- 山田和彦・工藤孝浩, 2001. 神奈川県三崎魚市場に水揚げされた魚類・X. 神奈川自然誌資料, (22): 43-50.

(工藤: 神奈川県水産総合研究所,

瀬能: 神奈川県立生命の星・地球博物館)